

# 梅窓院 大施餓鬼会 法要

七月二十一日(水)

# 青山山

発行/梅窓院 編集/青山文化村  
発行日/平成16年9月1日  
発行人/中島 真成  
住所/〒107-0062東京都港区南青山2-26-38  
電話/03-3404-8447  
FAX/03-3404-8107  
ホームページ/ <http://www.baisouin.or.jp/>  
E-Mail/ [jodo@baisouin.or.jp](mailto:jodo@baisouin.or.jp)

題字/浄土門主総本山知恩院門跡  
第八十六世中村康隆陛下

### 猛暑の施餓鬼会法要

東京で最高気温39度を記録した7月21日、梅窓院では施餓鬼会法要が営まれました。酷暑にも関わらず大勢のお檀家様が来寺されました。

本堂に荘厳佛具が納められてから初めての大きな法要という事もあり、参加された皆様に内々陣が開放されました。間近で見る天井画や佛具の迫力に圧倒されていた様子でした。



梅窓院第二十五世  
中島真成  
莊嚴佛具完成

住職  
挨拶

今年の夏は史上最高を記録する猛暑となりました。みなさんは如何お過ごしになりましたでしょうか。

暑さ寒さも彼岸までと言いますので、もう落ち着くことでしょうか。

さて、ようやく本堂に佛具が納まりました。厨子を大きくしたような本尊を祀る宮殿(くうでん)、香炉や花を並べる前机など、この『青山』でも作られていく過程を細かくレポートしてきた莊嚴佛具が完成したのです。

この莊嚴佛具を作るにあたっては、檀信徒の皆様にはご寄付をいただきました。いわば皆さんのお気持ちが目に見える形になったものです。改めて紙面からですが、御礼を申し上げます。ありがとうございます。

思えば、今回の本堂復興は一人でも反対の方がいれば色々な問題も起きたに違いありません。聖徳太子は「和をもって尊しとす」と言われましたが、今回の莊嚴完成で新生梅窓院の「和」が成就したと思っております。

なお、しばらくの間、本尊を間近で見られるように致します。何代も前のご先祖さまにもお参りされ、また何代も後までにもお参りされるご本尊、そしてそのご本尊を取り巻く莊嚴の数々、墓参りや行事でお出かけの際にぜひご覧いただければと思います。



法話

# 老

第二一回 (四回連載)

切なさの年齢

長野市十念寺 副住職

## 袖山榮輝 上人

明治四十三年生まれというから、今年、満で九十四歳になる。東京下町の小さな寺で暮らす祖母のことである。だいたい腰も曲がり、足下もおぼつかないが、自分のことは自分でできる。おかげさまで健康であるが、九十四年も生きていけば、その分、重ねてきた喜びも悲しみも数多い。

喜びとすれば、大きな病気もせず、ひ孫たちと一つ屋根の下で暮らしていることだろう。ひ孫と言ってもすでに

に高校三年生と中学三年生になつてゐる。私にしてみれば甥姪だ。子孫の行く末を見守るといふ人生の楽しみからすれば、十分満足できる巡り合わせと言えよう。

一方、悲しみはどうだろう。深川は本所生まれの祖母は娘時代に関東大震災に出くわした。多くの身内を亡くした。結婚後も戦時中に六歳の娘を流行病で亡くしている。空襲では赤ん坊を背負ったまま逃げ回りました。

せよ。」「スッタニパータ』第六〇偈」という言葉がある。財産はおろか家族さえも自らを縛る煩惱と受け止め、それを振り払えば自ずと覚りの世界が開けてくるという意味である。

しかし、それは表面上の理解であろう。

むしろ、どれほど他人が心配してくれようとも、自分の痛み苦しみを他人が引き取ってくれるわけではない。他人の人生と自分の人生を入れ替えることなどできるものではないと心得た方がいい。それがたとえ親子、夫婦、兄弟であつても、どれほど愛おしい人であつても、その者の痛み、悩み苦しみを替わつてあげることはできないのである。だからサイの角のように一人で行動するしかないし、周りもただ見守っているしかないのである。

七十二歳で夫の死別。それもこたえただろうが、一番の

悲しみは九十を過ぎてから、我が子を見送らねばならなかつたことだろう。

もう三回忌になるが、小さな寺の住職を継いだ私の実父は七十歳のある日、忽然と往生してしまつた。その仮通夜の準備をしていたときのことである。祖母が母に言った。

「二人が結婚するとき、息子のへその緒と生まれたときの髪の毛と爪を渡したはず。

それを棺に入れてほしい」

葬送の日、みなぎ止めるのも聞かず祖母は火葬場までついてきた。釜に火が入る。祖母は居並ぶ高僧方にも気付かぬまま、棺にじつと手を添え見送つた。

ところで、お釈迦さまの教えに「子どもも妻も、父親も母親も、財産も穀物も、はたまた親族親類も、さらには多岐にわたるもろもろの欲望を打ち捨てて、あたかもサイの角のように一人となつて行動

老いるとは、ただ見守るしかない切なさを静かに受け入れることなのだろうか。七十歳の息子の棺にへその緒を託し、じつと手を添える祖母。切なさを年輪を垣間見た。

(浄土宗総合研究所研究員)

### 5・6・7月の行事報告

5月14日(金)～15日(土)

団体参拝旅行

### 松本 玄向寺参拝

玄向寺本堂にて 住職と共に記念撮影。今年は総勢33名の参加がありました。

今年も境内から溢れる程、大勢郡上おどりファンが集まりました。写真は寺院棟屋上より撮影。

### 6月19日(土)・20日(日) 郡上おどり in 青山



### 7月13日(火) 盂蘭盆会法要

莊嚴仏具の整った本堂にて、盂蘭盆会法要が厳かに営まれました。



# 秋の

# お

# 彼岸

まもなく  
秋のお彼岸を迎えます。  
ご家族そろって  
ご先祖様をお参りしましょう。

## 九月二十五日(木)

### 彼岸寄席 午後一時～一階観音堂

### 秋彼岸会法要 午後二時～二階本堂

#### 秋彼岸寄席

午後一時～ 観音堂にて  
落語

入船亭扇遊師匠  
林家ぼたんさん



入船亭扇遊師匠  
S29年熱海市生まれ。S60年9月に  
真打昇進。自己PR「恥ずかしくて  
とても公表できません」



林家ぼたんさん。

入場無料  
全席自由

秋彼岸会塔婆申込み  
同封のはがきを使い九月十  
五日必着でお申込み下さい。  
塔婆回向料は一本七千円とさ  
せて頂きます。  
お支払方法  
同封の振込用紙で郵便局に  
てお支払い頂くか、当院受付  
までお持ち下さい。(銀行で  
のお振込みは出来ません。)  
◆お檀家様へお願い◆  
九月十八日から二十六日ま  
で特に土日祝日は、お参りに  
来られる方で大変混み合いま  
す。ご来寺の際は電車等、公  
共交通機関をご利用下さい。



ご自身が撮影した五台山の写  
真を使ってお話し頂きました。

仏教  
研究所  
だより

第三十二回  
念仏と法話の会  
六月十日(木)

「五台山紀行」

講師 長野教区寛慶寺住職  
水科善隆 上人

今回は中国仏教の三大霊山の  
一つである五台山を訪れたエ  
ピソードをお話し頂きました。

訂正 「青山」18号3面、精勤表彰者名で誤りがありました。  
様と記載しましたが、正しくは  
様でした。紙面より訂正し、お詫び致します。

# 梅窓院 本堂内陣 荘厳佛具

約二年半の歳月をかけ、京佛具職人によって製作が進められてきた内陣荘厳佛具が完成し、今夏本堂に無事納められました。

佛具の完成と同時に、本堂内々陣の天井画も納められました。螺鈿細工で描かれた阿弥陀二十五菩薩の紋様は繊細で大変美しいものです。

この様に新たに彩られた本堂内陣は極楽浄土の光を放ち、私たちが敬虔な心に導くことでしょう。現在、十一月二十日の落慶法要でのお披露目に向けて、準備が進められています。

## 荘厳佛具搬入

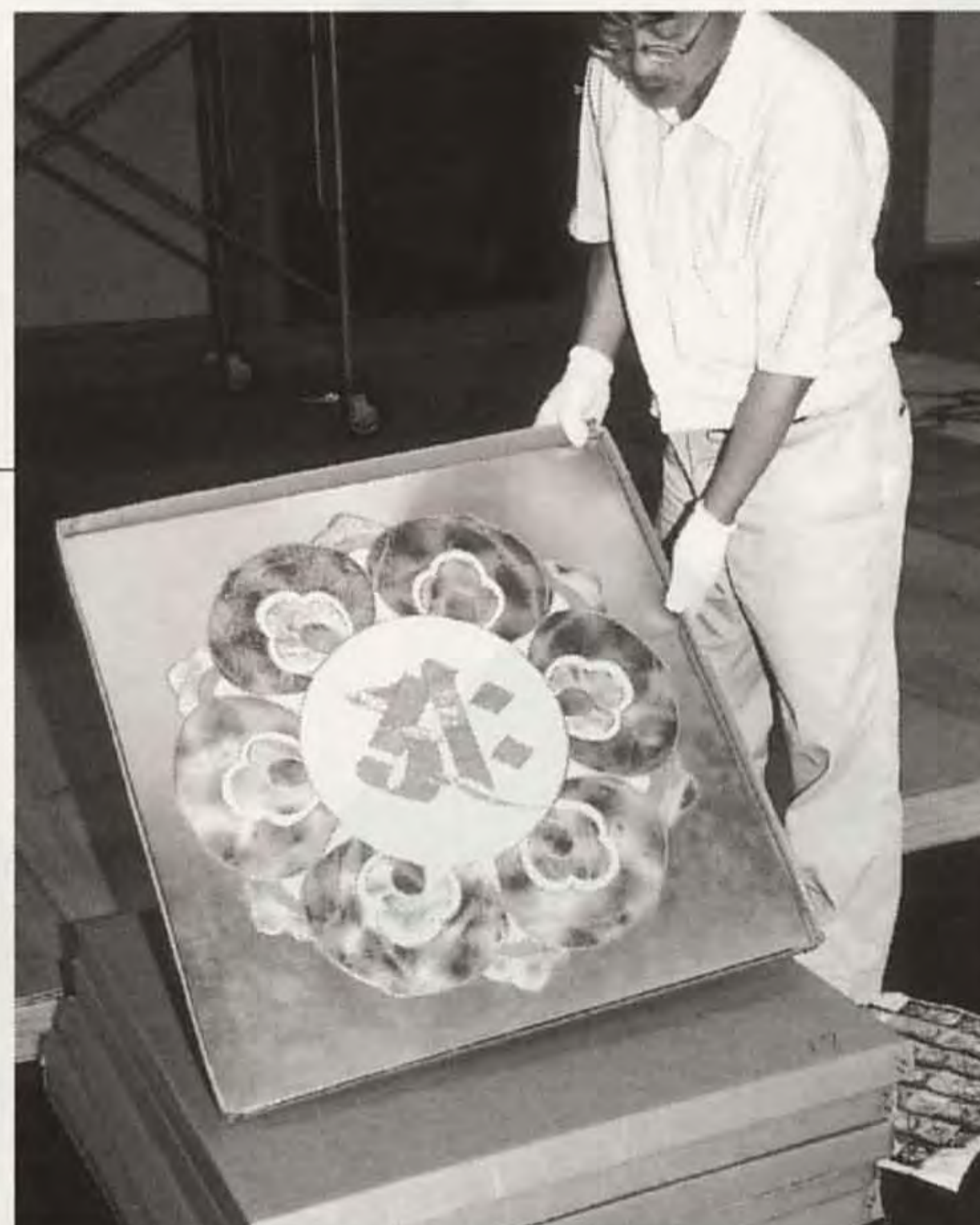
荘厳は総檜造りで大変重く大きいので、全てばらして搬入します。宮殿屋根だけで重量は約500キロ。15人がかりで担ぎ上げます。



## 総合組立

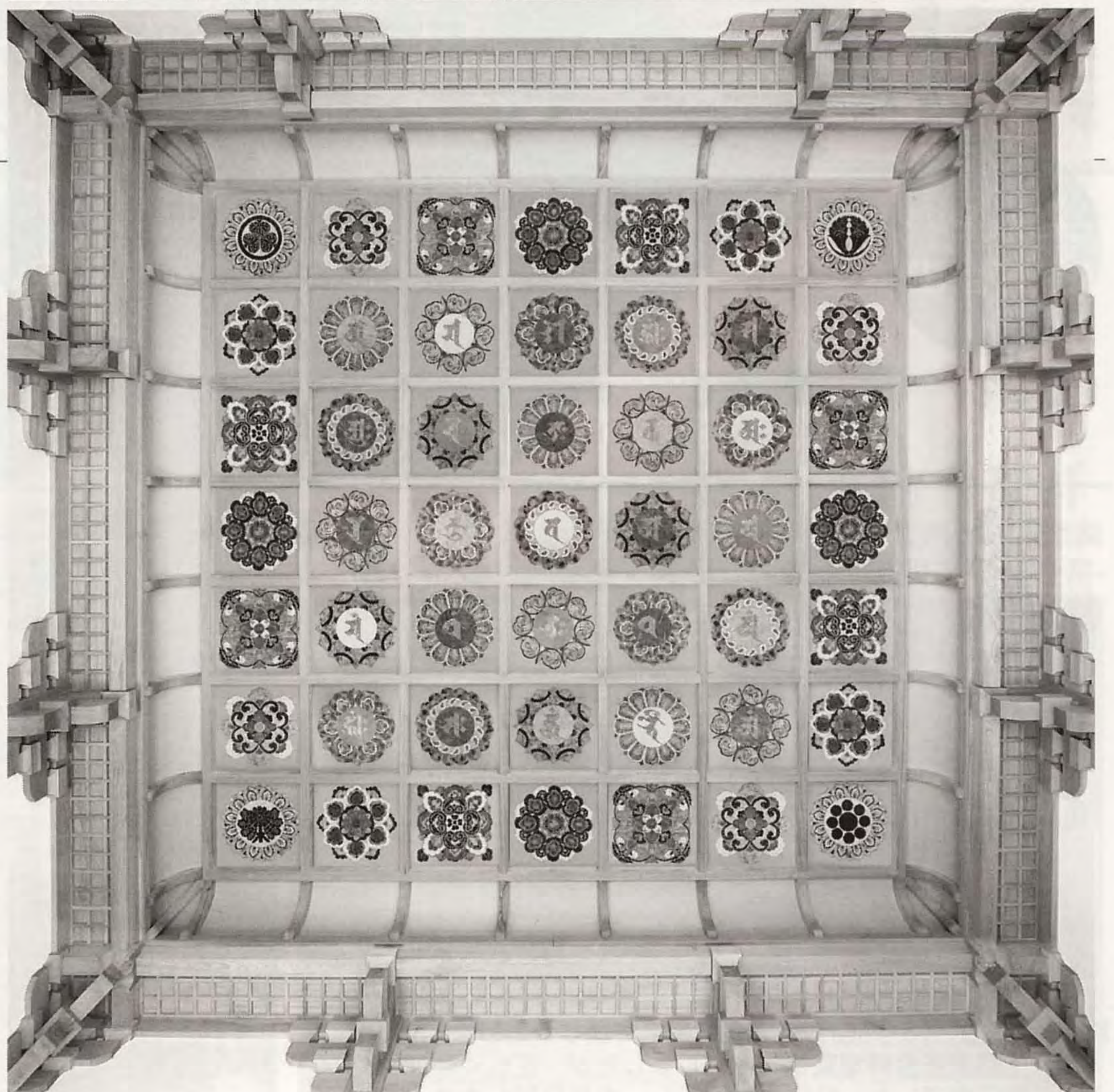
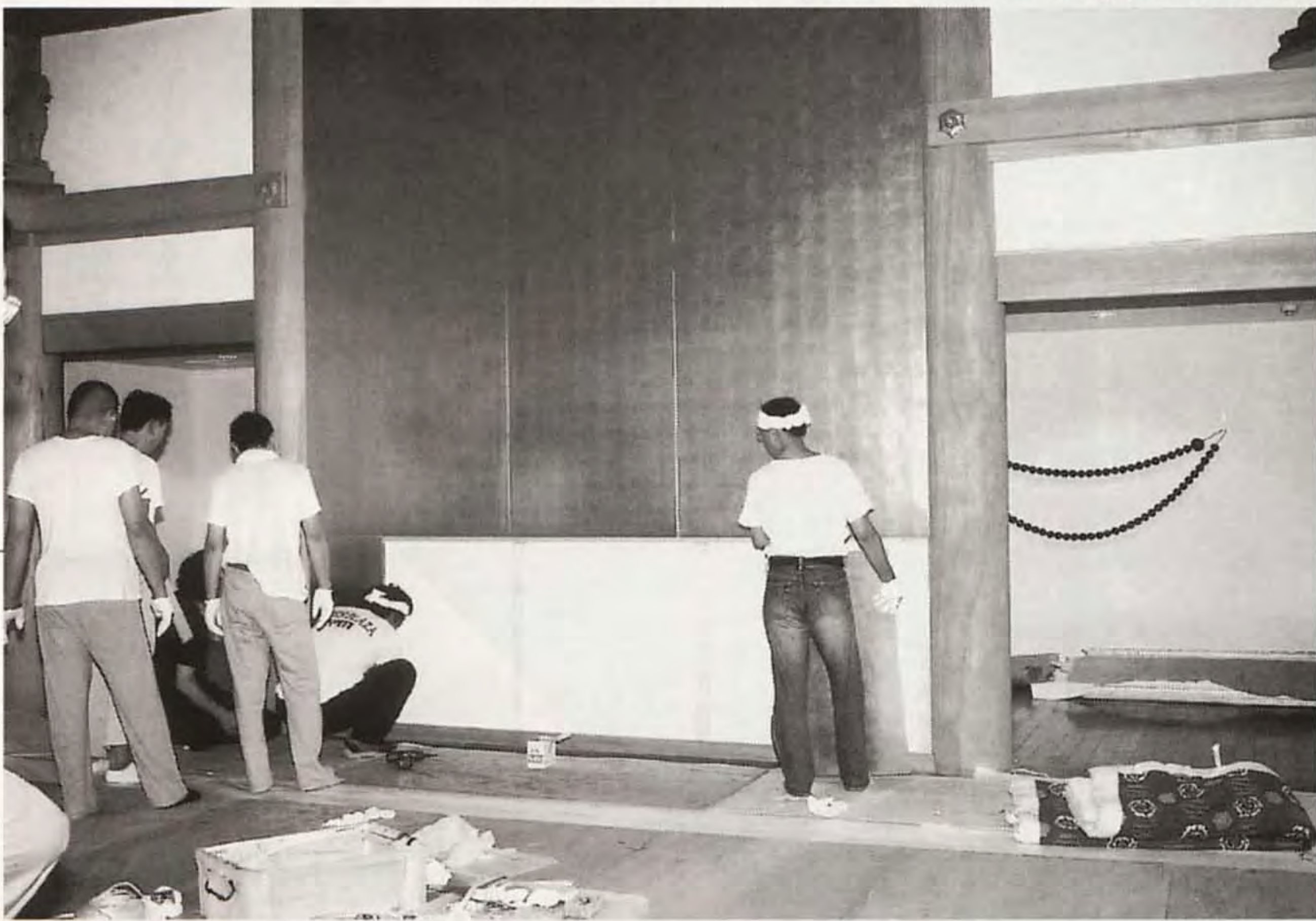
### 天井画嵌め込み

美しい螺鈿細工が施された天井画。梵字で阿弥陀二十五菩薩が描かれています。



### 背面金箔板嵌め込み

阿弥陀仏が収まる宮殿の背面には金箔板が嵌め込まれ、美しい輝きを放ちます。



### 須弥壇設置

宮殿を乗せる須弥壇が組まれます。



ガ、を

木地  
 宮殿  
 須弥壇  
 前机  
 天蓋  
 瓊瑤  
 浄華  
 曲物

彫刻  
 丸彫り  
 付け彫り

漆塗  
 堅地  
 半田地

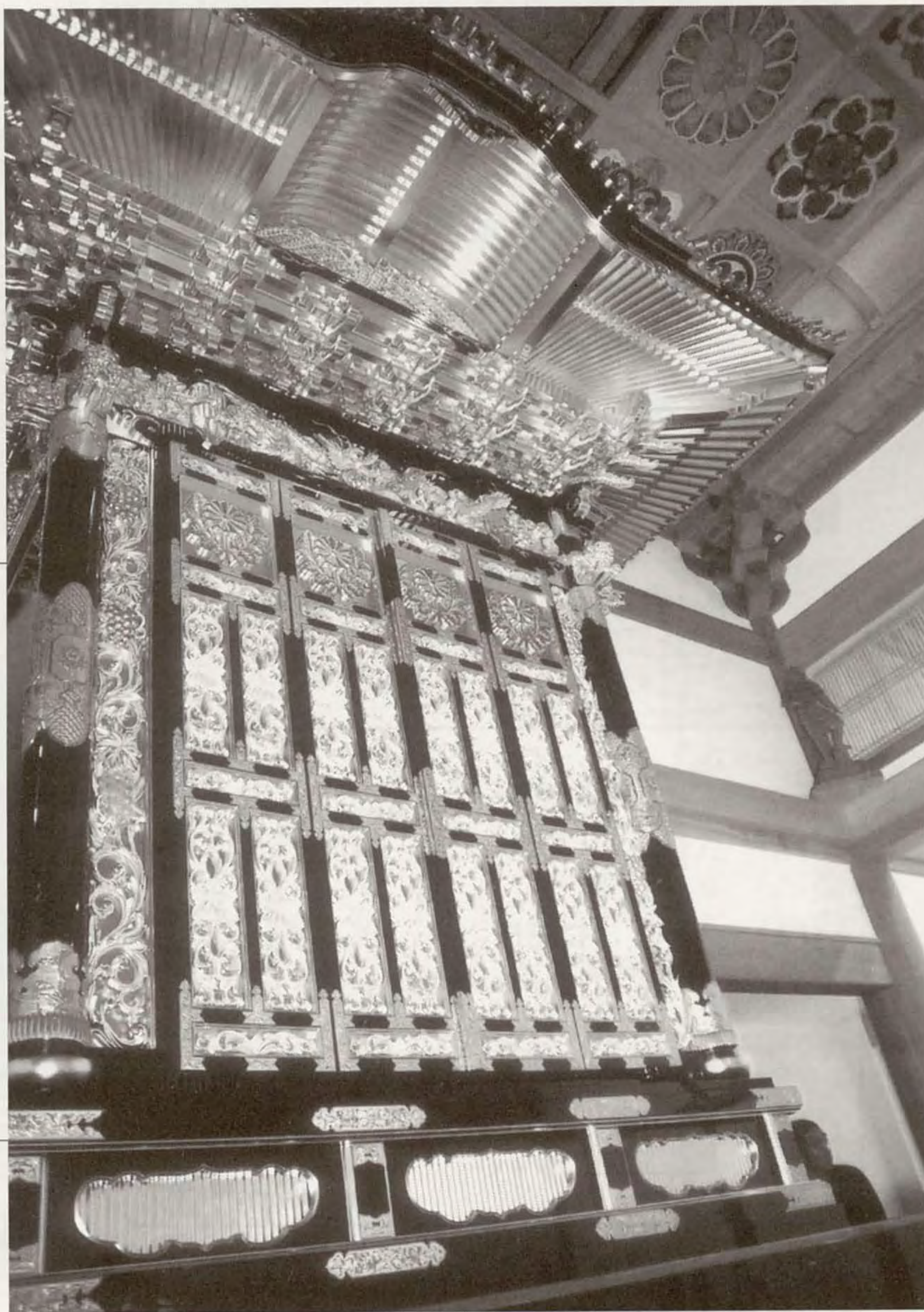
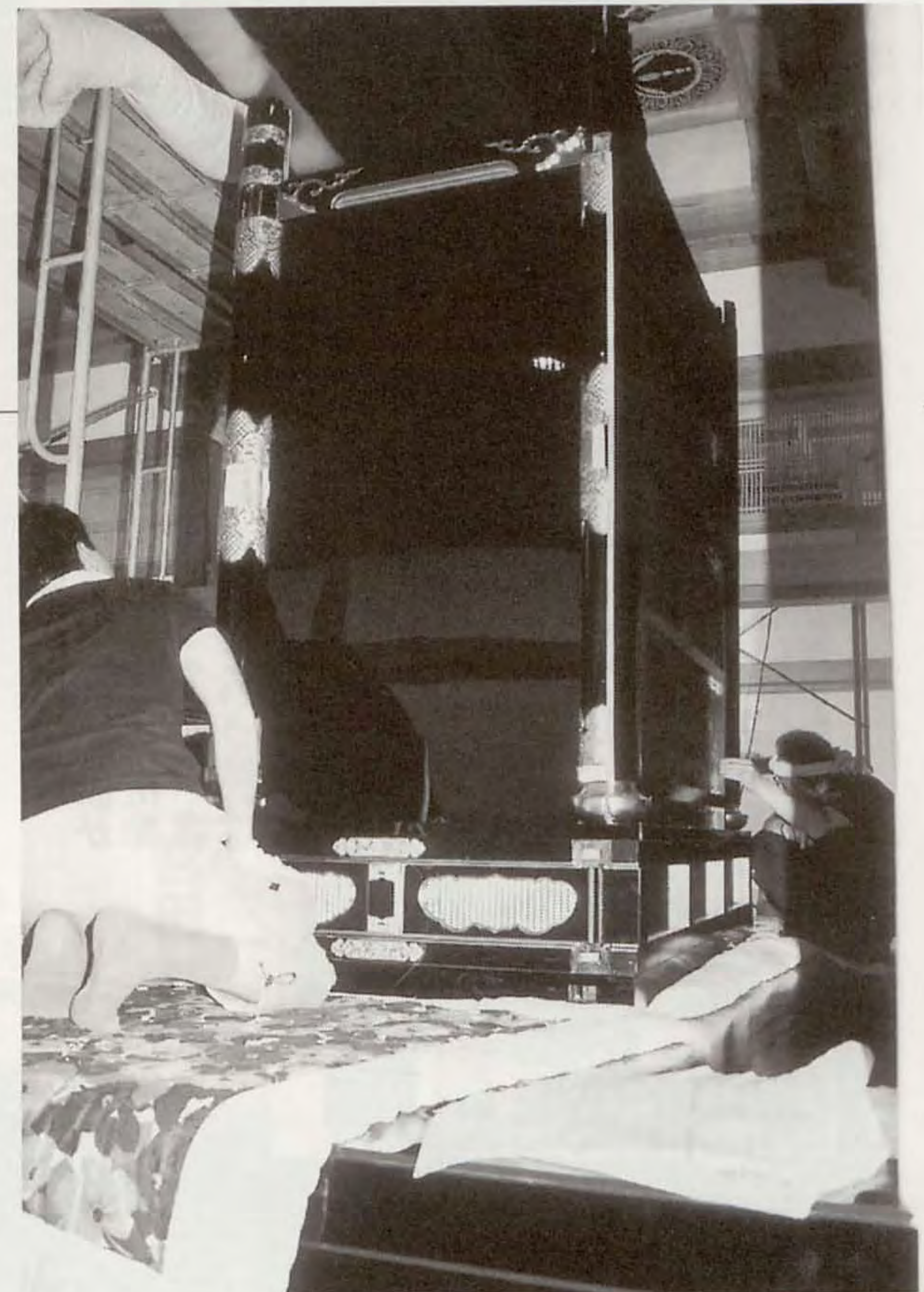
進行過程

銕金具

彩色  
 箔押  
 蒔絵  
 蟬色

総合組立

完成



職人さん勢揃いみなさん笑顔です。

宮殿が組みあがりました。扉には見事な彫刻が施されています。

宮殿組立

宮殿の屋根を天井から吊り上げ、柱や側面板などを入れて全体仕上げていきます。

「ぶらり門前膝栗毛」編集員募集中！  
 私たちと一緒に寺を訪ねて見ませんか？  
 お問い合わせ 梅窓院 青山文化村 03-3404-8447

ぶらり門前膝栗毛

その2

# 【九品仏浄真寺】

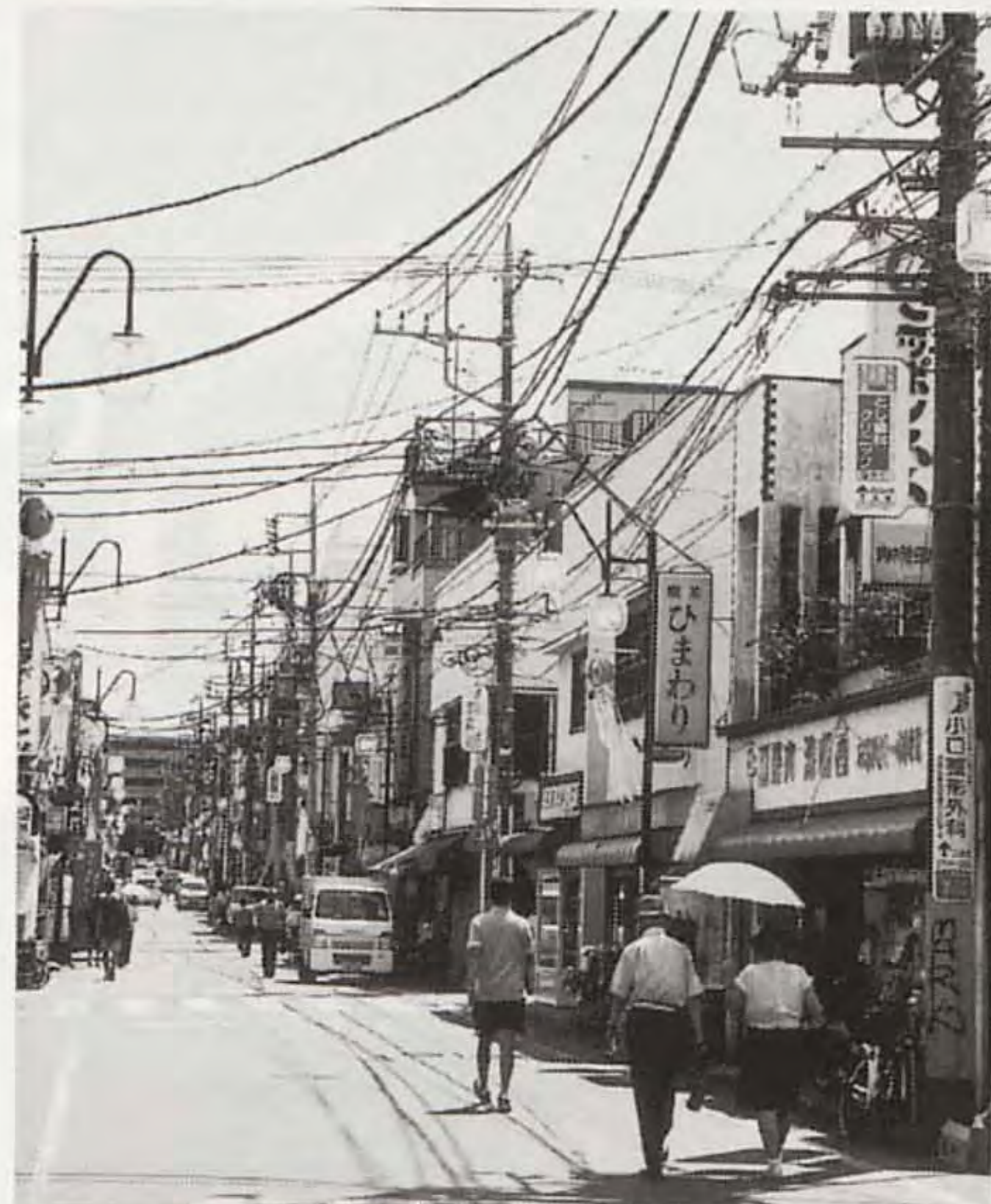
九品山唯在念佛院浄真寺  
 東急大井町線九品仏駅



九品仏駅で下車したさんとさん、二度目の取材とあって駅での撮影もスムーズに終わらせ、九品仏浄真寺へ。駅前交差点からの参道は緑に覆われ3~4度は涼しい。住職が「自然を残したい」という通り、周囲の奥沢城跡には苗木が植えられ、落ち葉も堆肥にされる。樹齢八百年から二百年の古木が並ぶ寺領の周りには高いビルもなく、本道や中庭からの景色は古都京都を思わせる風情。聞こえるのも蝉の声。この世からあの世への疑似体験とでもいうお面かぶりが有名で三年に一度のこの行事に多くの人が集まる。本堂のお釈迦様から上品堂に架けられた橋を二十五菩薩がわたるさまは圧巻だ。お二人は自然はもとより、忙しい中2時間近くも案内してくれた住職に感激。そして「今度のお面かぶりには来ますから」と今回も楽しいお寺巡りとなった。

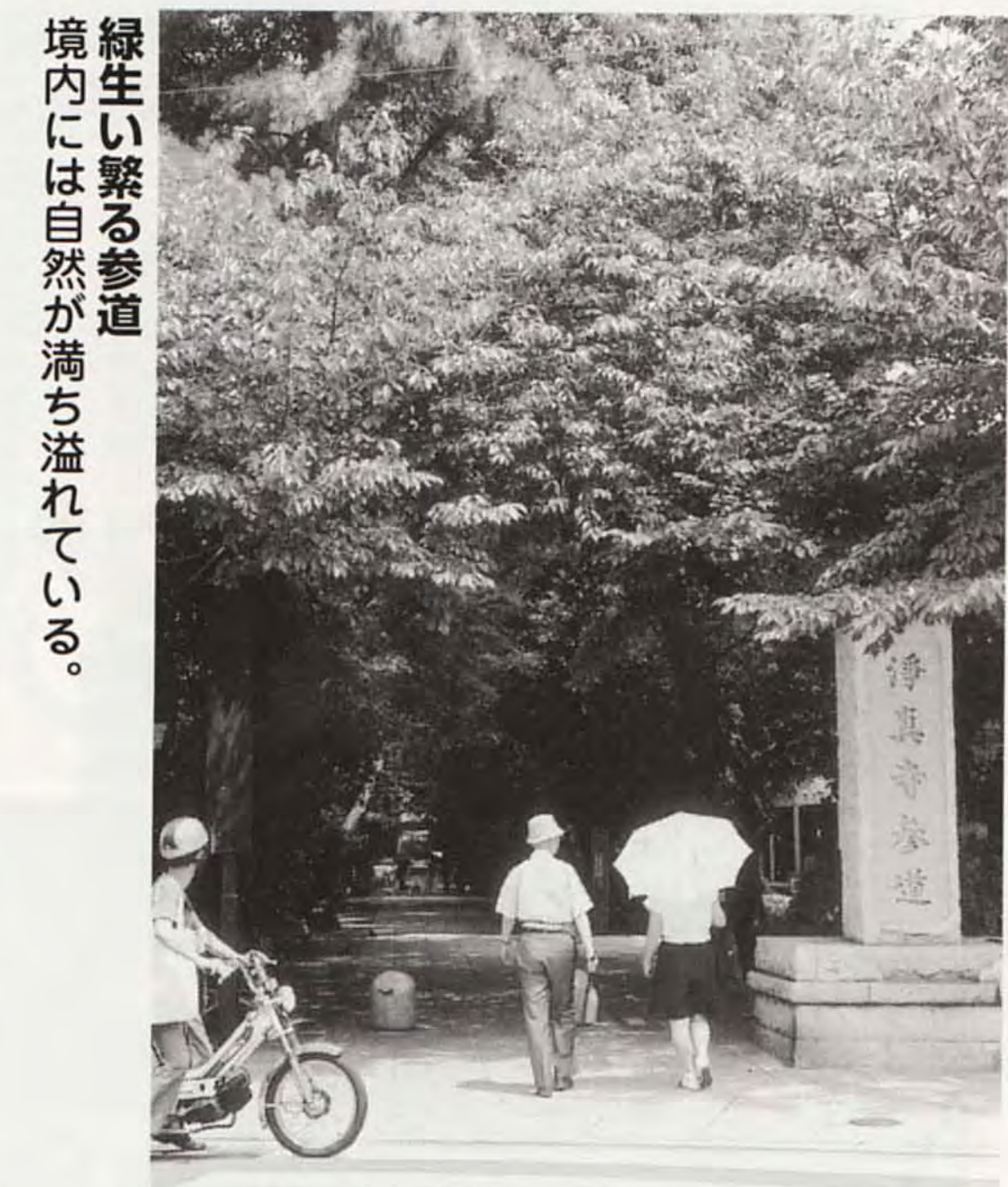


老舗の味に舌鼓。  
 創業百八十年、老舗の魚屋さんのお刺身をいただきました。

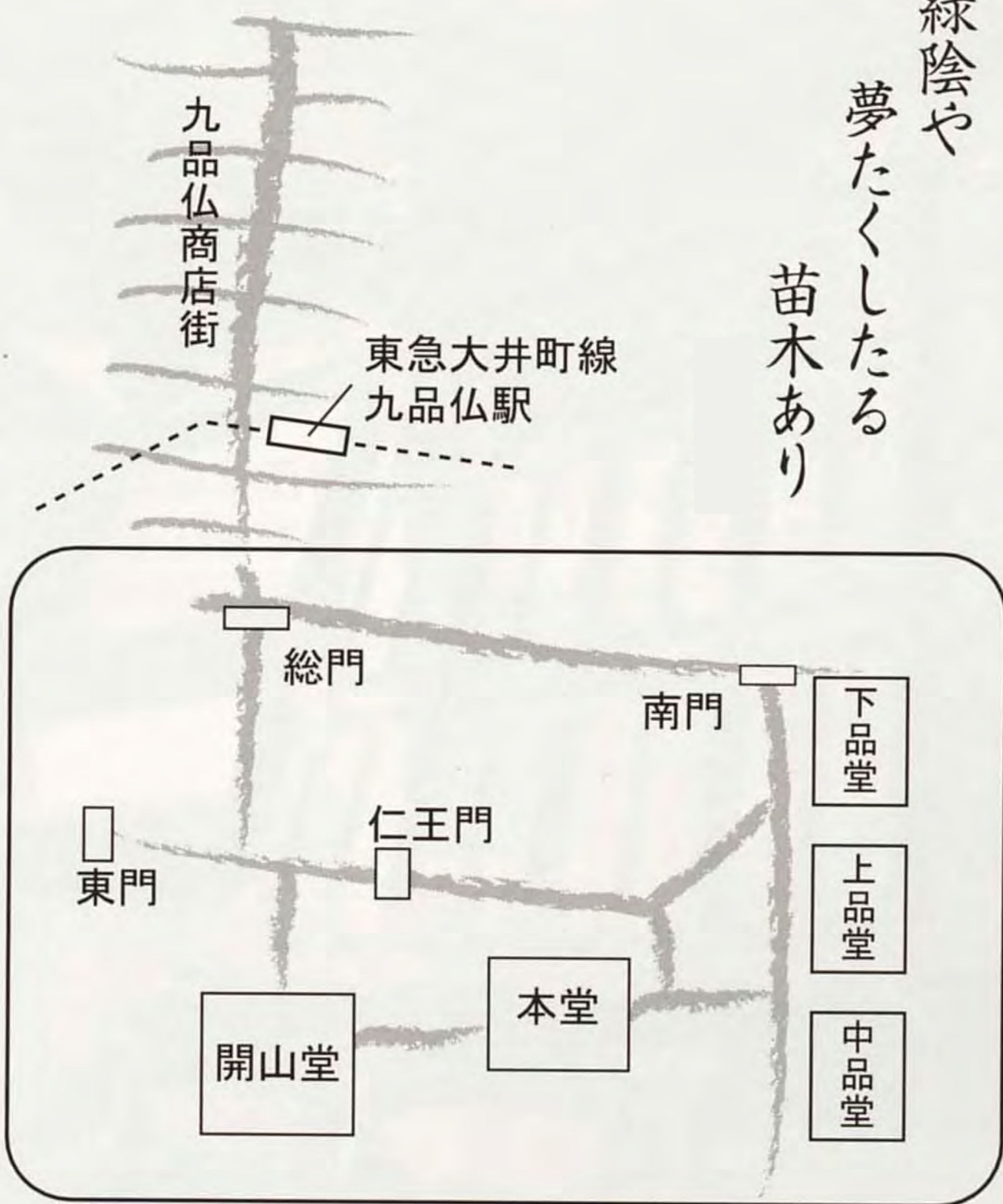


九品仏駅下車。  
 どんなお寺だろうか？  
 楽しみだな。

九品仏商店街  
 駅を挟んで伸びています。



緑生い繁る参道  
 境内には自然が満ち溢れている。



緑陰や

夢たくしたる

苗木あり

住職と記念撮影。



奥沢城址の土塁を一巡り。  
 九品仏は奥沢城跡に建てられました。

## 九品仏って？

九軀の阿弥陀如来像が奉られている事からこう呼ばれています。開山は江戸時代の高僧珂碩上人。境内は緑が溢れ憩いの場となっています。

三仏堂と二十五菩薩面。  
 九品仏のお面かぶりは有名な行事。三年に一度八月十六日に行われる。



由緒ある歴史に釘付け。  
 総門には般舟場という額が掲げられている。般舟場（はんじゆじょう）は、念仏に励む場所という意味。



小豆を  
食べよう

食養研究家  
武鈴子

# 食は命なり

第十六回

お彼岸といえばおはぎ、おはぎといえば小豆、小豆はマメ。豚の腎臓のことを「マメ」と呼ぶが、小豆は昔から利尿作用が高いことで知られており、腎臓の働きを助ける貴重な食べ物です。

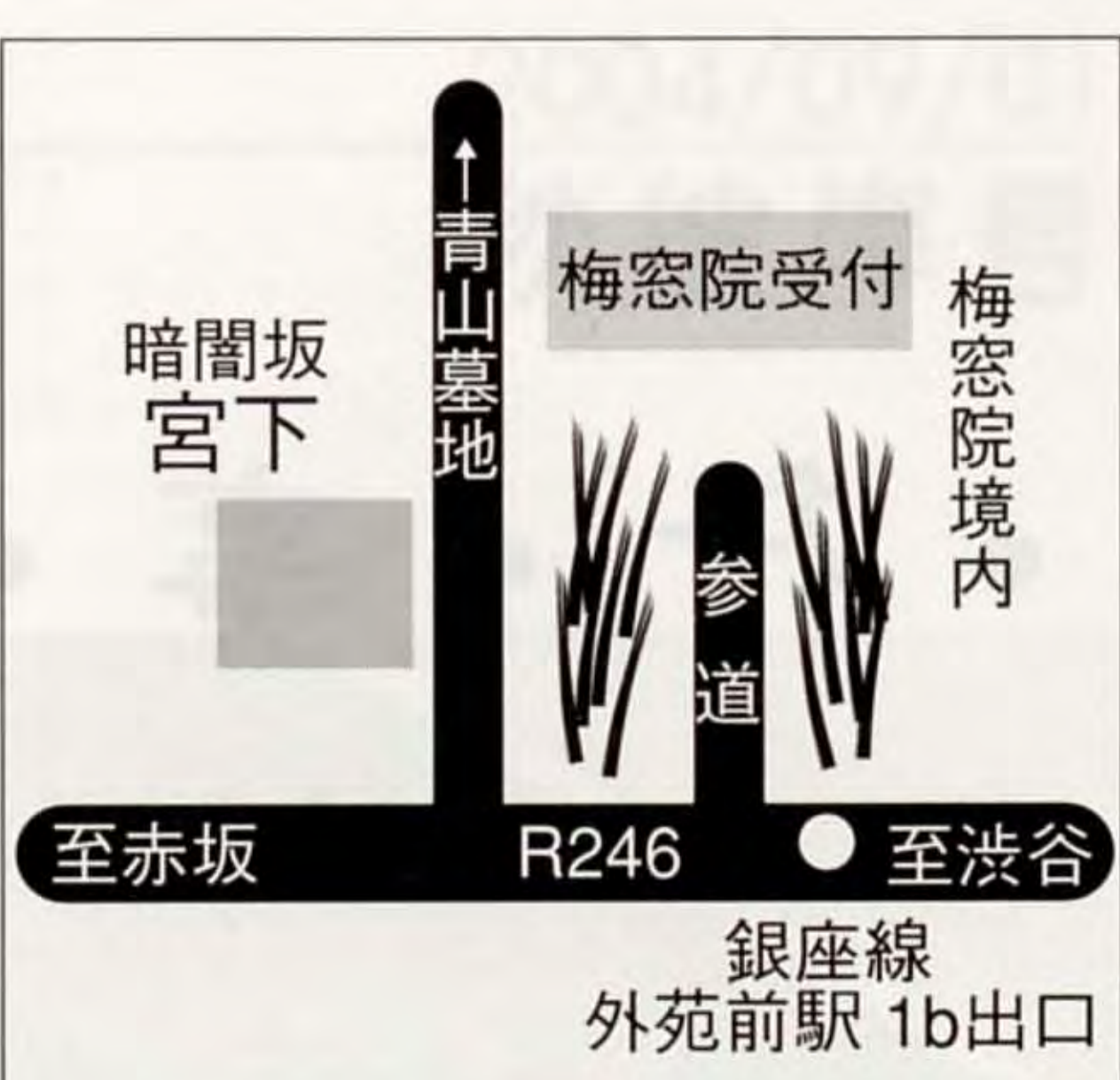
小豆は日本では、年中行事のお赤飯やおはぎ、お汁粉、和菓子のあんこなどに幅広く利用されています。このことは日本の気候風土から体を守るための生活の知恵だといわれています。高温多湿の風土の中では体内の余分な水分を皮膚から発散させることが難しいといわれ、その分、排尿で調節するために腎臓に負担がかかってしまいます。その負担を和らげるために、利尿効果の高い小豆がいろいろな形で利用されてきたのです。

日本では盆地の京都などで、毎月1日・15日には小豆粥を食べる風習があり、毎月ではないが小正月に小豆粥を食べる地方もあります。また冬至にかぼちゃと小豆を煮た「いところ煮」を食べたりします。韓国では小豆は邪気を払うといわれ、冬至に白玉入りの小豆粥を食べるそうです。

薬膳では、季節と体は関係があり、冬場は腎臓・膀胱に負担がかかるといわれています。小豆はビタミンB1が豊富に含まれているので、腎臓の働きを助けると同時に風邪予防にも効果があります。

頻尿、むくみ、寝てから何度もトイレに立つなどの薬膳は、小豆を5倍の水で軟らかく煮て、その煮汁に塩をほんのつまみ入れて飲む。小豆も食べます。

営業時間/昼 12時~15時  
夜 18時~23時  
料理/昼膳 4,000円より  
夜膳 12,000円より  
港区南青山2-24-8 1階  
Tel・Fax / 03-5785-2431  
カウンター6席・個室5部屋  
10月より日・祝日営業予定



入口わきの個室。外には笹が並び、その向こうが梅窓院の竹林参道。



# 宮下

暗闇坂

青山散歩道

暗闇坂宮下 青山店

麻布十番の暗闇坂宮下が十年目を迎え、青山に出店。しかも場所は梅窓院参道横の新しい本堂工事中に仮本堂となっていた場所です。麻布店が地下一階、丸ビル店はビルの中、初の路面店になるこの青山店は入口が笹の

トンネルで、梅窓院の参道の竹林と見事にマッチ。それもそのはずで梅窓院を設計した氏のデザイン。個室メインの高級和食がコンセプトで、気軽な価格ではないが、もちろんその価値は十二分の料理が供される。十月からは日曜、祝日も営業されるとのこと、法事帰りにお洒落し直してゆつくり楽しむには最高のお店だ。

# 青山俳壇

選者・『ウエップ俳句通信』編集長 大崎紀夫

## 夏の季語

◎特選

空梅雨や市のセールで傘を買ふ  
(評) 特選句には諧味があつていいですね。

◎佳作

病む身にも愉しみのあり冷奴  
流行は追はず馴染の夏帽子  
ひと時の癒しとなりし木下閣  
奥山に音たかだかど滝しぶき  
耳寄せて水琴窟の音涼し  
落人の岬の浜の薄暑かな  
都路に郡上おどりの一夜かな

△ワンポイントアドバイス

句作りにおいて避けるべきは、因果(原因と結果)が出ることです。何々だからどうした、という句は理屈が出るだけで、自然と向きあつたときの感動が出ないといわれています。理屈ではなく心を、ということなのです。

### 投句募集

次回は「秋の季語」でご自由にお詠み下さい。10月31日を締切、来年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句お待ちしております。  
※〒107-0062 港区南青山2-26-38  
梅窓院  
「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集  
青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、左記の番号までご連絡下さい。  
※ウエップ編集室  
電話〇三(五三六八)一八七〇

# ・ 行 ・ 事 ・ 予 ・ 定 ・



## 秋彼岸会法要

九月二十三日（月）

午後一時～ 彼岸寄席

午後二時～ 秋彼岸会法要

寺院棟二階 本堂にて

（詳細は三面をご覧ください）

## 第三回 念仏と法話の会

十月八日（金）

午後十二時半～ 別時念仏会

午後二時半～ 法話

講師 宮城教区 往生寺

豊嶋 瑞俊 上人

## 梅窓院本堂落慶法要

十一月二十日（土）

午後一時～ 落慶法要

午後二時～ 十夜法要

午後二時半～ ミニリサイタル

午後三時～ 祝宴

（詳細は別紙をご覧ください）

## 梅窓院墓苑に墓地を ご使用の皆さまへ

お手元に「墓地使用許可証」はお持ちでしょうか。（お檀家の皆さまには「入檀証」と一緒にお渡ししています。）これは梅窓院内での墓地使用を許可する大切な証書です。

納骨やお施主様の継承などの際は、当院で変更事項を裏書する為、お持ち頂くようお願いしています。

古くから墓地を使用されている皆さまには平成十二年二

## ◆ 仏教講座のご案内 ◆

「法然上人の御法語」全五回

講師 新井俊定 先生

大正大学出版会／上善寺住職

二回目開催予定

九月十三日（月）午後六時～

「仏教歳時記」全五回

講師 勝崎 裕彦 先生

大正大学教授／香蓮寺住職

二回目開催予定

十月十九日（火）午後六時～

※受講希望の方は仏教研究所

までお問い合わせ下さい。

TEL 〇三―三四〇四―八四四七



月九日付けで発行しております。それ以降、墓地をお求めになった皆さまには、その都度お渡ししております。

ご確認頂き、万が一紛失の場合には、当院までご連絡下さい。宜しくお願い致します。



勝崎裕彦先生。



新井俊定先生。

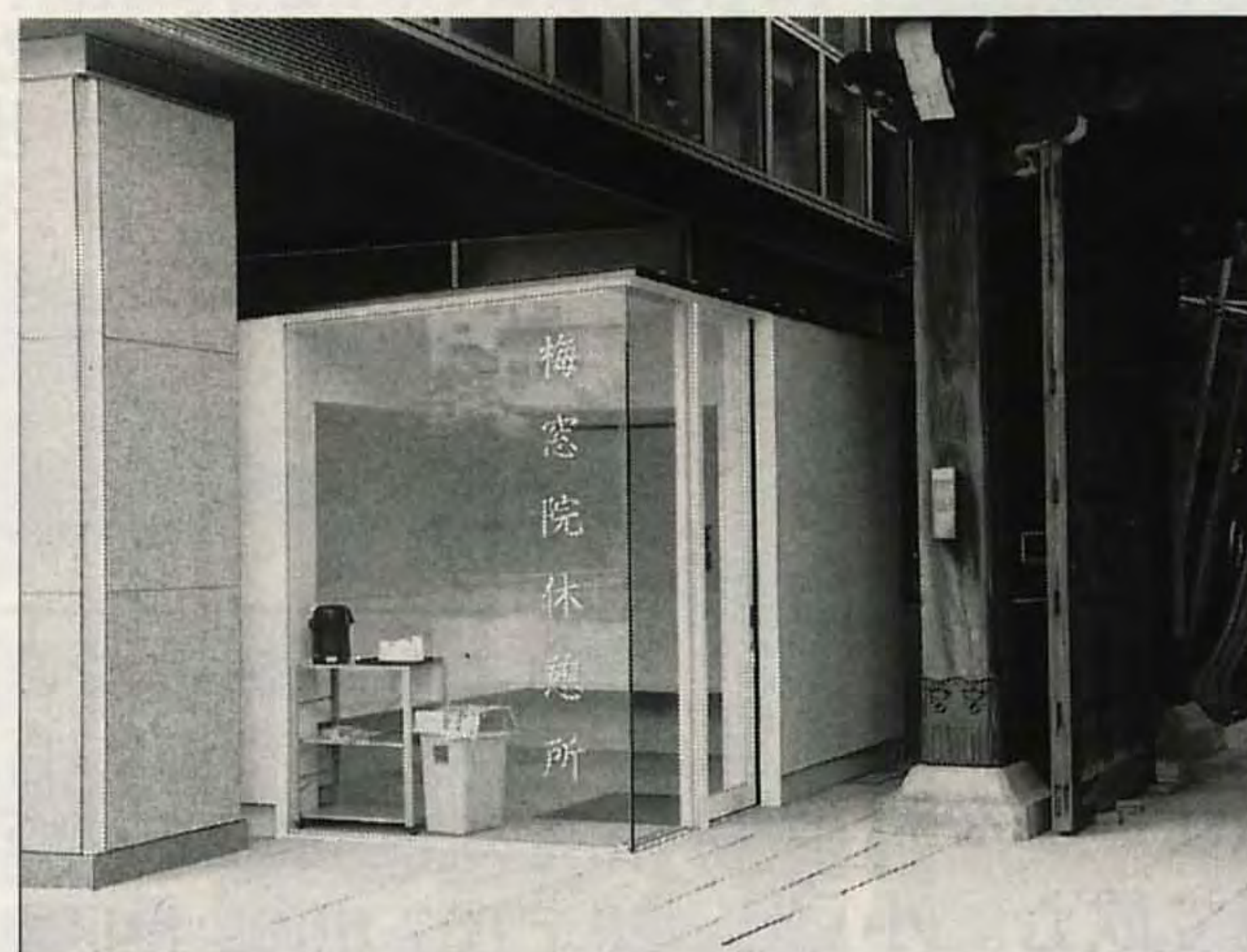
## 「観音堂寄進芳名額」完成

寺院棟完成を期に、以前お願いしておりました、観音堂寄進にご協力頂いた皆様の芳名額を作成致しました。一階エントランスに掛けてございますのでどうぞご覧ください。

## 梅窓院 だより

### 梅窓院休憩所のご案内

参道から山門をくぐって右手に墓参用の休憩所を設けました。全面ガラス張りです、入ると外が見渡せます。お待ち合わせやご休憩の時にご利用下さい。



## ― 編集後記 ―

記録的な猛暑に見舞われた今年の夏。そんな暑い日に、京都で完成した仏具が運ばれてきました。職人さんは大汗をかきながらも、慎重に大切に組立てていました。新しい荘厳仏具は本当に立派です。ぜひ一度見学にご来寺下さい。